

# 皮膚疾患と肝機能に関する研究

## 皮膚疾患患者における肝機能

岡山大学医学部皮膚科泌尿器科教室（主任：大村順一教授）  
(指導：野原望助教授)

太学院学生 大森 弘之

〔昭和37年3月20日受稿〕

### 緒 言

皮膚疾患が複雑な内的原因を有し、とくに肝機能が皮膚病変に対して多大の影響を及ぼすことは、もはや動かし難い事実として認められている。1912年 Bulkley<sup>1)</sup>は、皮膚疾患と肝機能の相関関係について始めて記載し、多くの急性、慢性皮膚疾患に肝障害が原因となる場合が多いことを臨床的に推定している。以来両者の関連についての業績は頗る多いが、代謝、排泄、分泌、解毒等複雑多様の肝機能とその障害がいかに皮膚病変に関係するかについての機構の解明は、未だ充分な段階に到っているとは云えない。私は今回、その相関の一端をうかがう目的で、臨床的に各種の皮膚疾患患者に肝機能検査を施行し、いささかの所見を得たのでここに報告する。

### 実験材料及び実験方法

#### 1. 実験材料

実験の対象としたのは、岡山大学医学部皮膚科を訪れた外来及び入院患者で、診断確実なもの163例、内男子79例（2～86才）、女子84例（6～63才）である。

#### 2. 実験方法

肝機能は単一なものではなく複雑多岐にわたるものであり、したがつて肝機能検査法も極めて多数である。肝機能を検索する上に、出来るだけ多種の検査法を同時に施行することは最も望ましいことではあるが、実施上数種の検査法に限られることも又止むを得ぬ所である。私は比較的簡便であつて、しかも正確度の高いという見地から次の9種の検査法を選択、実施した。

- i ) 血清高田氏反応……………高田
- ii) Gros 氏血清反応……………G.
- iii) 血清コバルト反応……………Co. R.
- iv) チモール漏斗反応……………T. T. T.

- v) セファリン・コレステロール絮状反応……………C. C. F.
- vi) スカーレット・レッド試験……………S. R.
- vii) モイレングラハト氏黄疸指数……………M.
- viii) 血清ビリルビン定性法……………V. d. B.
- 直接反応……………d.
- 間接反応……………i. d.
- ix) 尿ウロビリノーゲン反応……………U.

（以後文中の検査法の名称はすべて略号にて記載する）

これら9種の検査法を同一患者についてすべて応用することは、実際の施行に於いては困難な場合もあつたので、症例によつては、一部の検査成績の欠けているものもある。

各検査施行法はすべて金井の著書<sup>2)</sup>によつた。

採血は早朝空腹時に肘静脈より行ない、血清を分離した。

### 実験成績

前述の如く、対象とした患者は163例であるが、これらを次の如き各疾患群に分類した（疾患の分類は、北村の小皮膚科学に準拠した）。すなわち急性湿疹、慢性湿疹、接触性皮膚炎、尋麻疹及び神經皮膚症、エリテマトーデス、その他の紅斑症、紫斑症及び皮膚血行障害、水疱症、紅皮症、角化症及び炎症性角化症、皮膚硬化症、皮膚萎縮症、色素異常症、皮膚腫瘍、臍皮症、真菌性皮膚疾患、皮膚結核症及び銀皮症、癩、象皮症等を一括したその他の疾患計18群である。

肝障害の有無を肝機能検査成績より決定するときには、いかにその規準を定めるかについては色々と問題があり、諸家<sup>3)4)</sup>により異なる所であるが、私は9種の検査法の内、2種以上の検査種目に陽性を認めたものを障害有りとした。

#### 1. 急性湿疹

症例は男子10名、女子8名計18名で、その検査成

第1表 急性湿疹

照 例	年 性 齢	皮 疹 部 位	肝 機 能									
			高田	G	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S. R.	M.	V. d. B. d.	V. d. B. id.	U.
1	♂	81	顔、躯幹、四肢	+	+	R4	4	+	/	5.0	-	±
2	♂	52	全 身	-	±	R2	2	-	1	3.5	-	-
3	♀	21	顔、両 前 腕	-	±	R3	5	+	2	4.5	-	±
4	♂	64	頭、顔、軀幹	-	±	R3	1	-	0	2.4	-	+
5	♀	22	耳 介、頸、左 前 腕	-	-	R4	2	-	/	3.4	-	±
6	♂	44	顔、頸、下 腹、前 腕	-	-	R3	1	-	/	2.5	-	-
7	♀	57	頭、頸、前 胸	-	-	R5	4	-	1	3.0	-	-
8	♂	36	四 肢	-	-	R2	2	/	1	2.0	-	+
9	♂	44	顔、陰 養、足 趾	-	±	R6	3	-	0	3.5	-	-
10	♂	31	顔、頸、胸、背、四 肢	+	±	R6	5	+	4	6.0	-	+
11	♀	18	頭、顔、四 肢	-	±	R3	3	±	1	4.2	-	-
12	♂	57	頭、顔	-	-	R2	6	-	3	3.0	-	±
13	♀	32	頭、頸、四 肢	-	-	R2	2	/	0	2.5	-	-
14	♀	20	顔、頭、胸、肘 頭 窩	-	-	S5	7	±	2	4.5	-	+
15	♀	25	頭、顔、腕 窩、肘 窩	±	+	R6	5	+	2	3.6	-	±
16	♀	19	頭	-	-	R	4	-	1	3.0	-	±
17	♂	31	四 肢	-	±	R4	3	-	0	3.8	-	-
18	♂	46	頸、四肢、前 胸	-	-	R3	2	-	1	5.6	-	-

績を第1表に示した。

男子3名、女子2名計5名に肝障害が認められた。

この値は松延<sup>5)</sup>の17例中5例、安田<sup>6)</sup>の60例中42例、飛田<sup>7)</sup>の6例中4例等に比してかなり低率である。

検査種目別では、高田、G、それぞれ2例に陽性、Co. R. では5例に右側反応、4例に左側反応を、T. T. T. では5例、C. C. F. では4例に陽性が認めら

れた。S. R. は2例が軽度ながら陽性、U. は4例が陽性であつた。

## 2. 慢性湿疹

8例の男子、2例の女子、計10例中肝障害を示したもののは3例であり、第2表にその成績を示した。

この障害率は安田<sup>6)</sup>の27例中21例、千原<sup>8)</sup>の8例中3例、飛田<sup>7)</sup>の5例中4例等に比し、明らかに低

第2表 慢性湿疹

症 例	年 性 齢	皮 疹 部 位	肝 機 能									
			高田	G.	Co.R.	T.T.T.	C.C.F.	S. R.	M.	V. d. B. d.	V. d. B. id.	U.
19	♂	74	顔、頸、胸、背	-	-	R4	2	-	0	3.8	-	-
20	♂	19	顔、軀幹、四肢	-	-	R3	3	-	/	4.2	-	+
21	♂	50	顔、上腕、膝 囊	-	-	R5	2	-	1	4.0	-	-
22	♂	33	頭、前 頸、外 陰	-	±	R6	1	-	0	4.3	-	+
23	♂	69	軀幹、四肢	-	±	R7	4	-	1	3.0	-	±
24	♀	35	全 身	-	-	R3	3	/	0	3.0	-	±
25	♀	24	顔、頸 囊、肘 窩	-	±	R5	2	-	/	2.5	-	-
26	♂	40	頸 囊、背、胸、四肢	±	-	R4	1	±	1	4.2	-	+
27	♂	32	背、腰、上肢、下腿	+	+	R7	7	+	4	3.8	-	±
28	♂	60	顔、項、肘 窩	±	-	R2	4	±	3	2.7	-	-

値と見ることが出来る。

高田陽性を示すのは1例、G. も1例、Co. R. では右側反応5例、左側反応1例であり、T.T.T. 陽性1例、C.C.F. 同じく1例、S.R. 2例であつた。M. はすべて正常値範囲内であり、U. は2例に陽性であつた。

### 3. 接触性皮膚炎

症例は7例、内、男子4例、女子3例であるが、肝障害を有する患者は女子の1例にすぎなかつた。黒田<sup>9)</sup>の5例中5例、安田<sup>6)</sup>の48例中40例、岩間<sup>10)</sup>の180例中52例等諸家の報告に比し著明に低率であり、やや異なる成績を示した(第3表)。

### 4. 華痺疹及び神経皮膚症

男子3例、女子4例、計7例について検索したが、肝障害例は1例もなく、各検査種目別に見てもその陽性率は低く、Co. R. で右側反応3、左側反応2を、T.T.T. で軽度陽性1を証するに過ぎない(第4表)。

### 5. エリテマトーデス

私は紅斑症を、エリテマトーデスと、その他のもの

のに2大別したが、中でもエリテマトーデスは非常に高率にしかも高度の肝障害を認めた。その傾向はとくに急性播種状型に著るしかつた。症例はすべて女子であり、10例であるが、7例に肝障害を証した。この成績は諸家の<sup>6), 7)</sup>の成績にはば一致するものである。

種目別では高田6例陽性(卅1例、+2例、+3例)、G. 4例(+2例、+2例)、Co. R. 7例右側、2例左側反応を示し、正常例は1例にすぎなかつた。T.T.T. 8例、C.C.F. 5例、S.R. では6例が陽性を呈した。1例に於いて潜在性黄疸を証し、U. は4例に陽性であつた。

### 6. その他の紅斑症

粘膜皮膚眼症候群を含むその他の紅斑症8例では、肝障害例は少なく、粘膜皮膚眼症候群の2例に認められた。高田、G. は全例陰性乃至は偽陽性、Co. R. は右側反応2例のみ、T.T.T. 1例、C.C.F. 同じく1例のみ陽性、S.R. 陽性例なく、U. も2例を見るにすぎない(第6表)。

第3表 接触性皮膚炎

症 例	年 性 齢	皮 疹 部 位	肝 機 能									
			高田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.	U.
29	♀ 26	顔、四肢	—	—	R7	3	—	0	2.4	—	+	—
30	♀ 38	顎	—	±	R2	5	—	1	3.5	—	±	—
31	♂ 24	顎	±	—	R4	3	—	1	2.4	—	—	—
32	♂ 17	顎、下肢	—	—	R3	1	—	1	2.0	—	—	—
33	♀ 44	顎、頸、胸、肘頭	—	—	R6	4	±	2	3.2	—	—	—
34	♂ 32	顎、頸、前胸	—	±	R5	3	—	0	3.0	—	±	—
35	♂ 46	顎、前胸、手背	±	—	R4	2	—	1	1.5	—	—	—

第4表 華痺疹及び神経皮膚症

症 例	年 性 齢	病 名	皮 核 部 位	肝 機 能									
				高田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.	U.
36	♀ 33	慢性華痺疹	全身	—	—	R5	2	—	/	3.3	—	+	±
37	♀ 40	"	全身	—	—	R5	1	—	1	1.7	—	+	—
38	♂ 26	固定華痺疹	四肢	—	±	R2	2	—	1	1.5	—	—	—
39	♀ 25	色素性華痺疹	顎、軀幹、四肢	—	—	R3	3	/	0	2.0	—	—	—
40	♂ 2	"	全身	—	±	R2	5	—	1	3.6	—	±	—
41	♀ 17	皮膚瘙痒症	四肢	—	±	R5	4	—	0	4.0	—	+	—
42	♂ 40	"	全身	—	±	R3	4	—	1	2.8	—	—	—

第5表 エリテマトーデス

症例	性別	年齢	病名	皮疹部位	肝機能								
					高田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B.	U.
												id.	d.
43	♀	20	急性播種状型	顎, 四肢	卅	+	R7	8	+	3	3.2	-	+
44	♀	43	"	顎, 両手	廿	+	R8	5	+	4	4.5	-	+
45	♀	32	"	顎, 肘, 手, 膝	一	-	R4	2	-	3	3.6	-	+
46	♀	23	"	顎, 上肢	十	±	R6	6	+	6	3.5	-	+
47	♀	18	"	顎	十	+	R9	4	±	1	6.0	-	+
48	♀	49	"	顎, 四肢	廿	+	R6	7	+	3	7.0	-	+
49	♀	18	慢性円板状型	顎, 四肢	士	±	R6	8	-	2	3.5	-	+
50	♀	21	"	顎, 前胸, 上腕	一	±	R2	4	-	1	1.5	-	-
51	♀	27	"	顎, 耳介, 上肢	十	-	R6	6	+	3	2.5	-	+
52	♀	63	"	顎	一	-	R2	2	-	1	1.0	-	-

第6表 その他の紅斑症

症例	性別	年齢	病名	皮疹部位	肝機能								
					高田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B.	U.
												d.	i. d.
53	♂	26	粘膜皮膚眼症候群	顎, 四肢	一	-	R3	2	-	/	3.8	+	+
54	♂	38	"	全身	士	-	R4	5	+	2	4.0	-	+
55	♀	22	"	全身	一	-	R6	2	-	0	3.2	-	-
56	♂	51	"	軀幹, 四肢	一	-	R2	2	-	1	2.0	-	+
57	♂	42	"	四肢端, 口唇, 外陰	一	-	R7	4	±	/	4.8	-	+
58	♂	64	多形滲出性紅斑	軀幹, 四肢	一	-	R3	2	/	0	3.4	-	-
59	♀	20	血管神経性環状紅斑	両大腿	一	-	R4	1	-	0	2.0	-	-
60	♀	10	ウエーバークリスチヤン氏病	軀幹, 四肢	一	-	R4	4	-	/	5.0	-	+

第7表 紫斑症及び皮膚血行障碍

症例	性別	年齢	病名	皮疹部位	肝機能								
					高田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B.	U.
												d.	i. d.
61	♀	20	リュウマチ性紫斑	両下肢	一	-	R7	5	+	/	2.7	-	-
62	♂	31	"	"	一	-	R4	3	-	0	1.0	-	-
63	♂	56	血管拡張性環状紫斑	臀部, 両下肢	一	-	R4	1	/	0	3.5	-	+
64	♂	22	シャンバーグ氏症	両下腿	士	-	R6	2	±	1	/	/	-
65	♀	19	肢端紫藍症	四肢端	一	-	R3	2	-	/	2.5	-	-
66	♂	22	"	四肢端	一	-	R2	1	/	1	3.0	-	+

## 7. 紫斑症及び皮膚血行障碍

症例は6例、男子6、女子2例であるが、リュウマチ性紫斑の1例に肝障害例を認めたに過ぎない。諸家<sup>9)10)</sup>の報告もほとんど低率を示している。高

田、G. には陽性例なく、Co. R. 右側反応2、左側反応1、T.T.T. 1例、C.C.F. も同様に1例に陽性を見た。M., U. はすべて陰性である(第7表)。

## 8. 水疱症

症例男子8, 女子4, 計12例中肝障害を認めたものは8例で高率を示している。とくに尋常性天疱瘡では3例中2例、先天性表皮水疱症では3例全例に肝障害を証した。桂<sup>10)</sup>の成績も本実験にはほぼ等しいものである。種目別では高田4, G 4, Co. R. 右側7, 左側1, T.T.T. 6, S.R. 6, U 4とはほぼ似通つた率に陽性度を示した(第8表)。

## 9. 紅皮症

男子5例、女子4例、計9例の紅皮症についての検索では、障害例4例で、その内ヘブラ3例、ウイルソンプロック1例であつた。その他の紅皮症では全く障害例は証せられなかつた。ヘブラに於いては

全例が障害されていると同時に、又陽性度が強度であった。これは飛田<sup>7)</sup>、桂<sup>10)</sup>等の報告と一致する所である。高田陽性例は4例、その内ヘブラは特に強陽性を示し、1例卅、2例が廿、G. の陽性例も又4例で同じくヘブラの2例が卅、1例が廿と強い陽性度を示している。Co. R. では右側反応を示したものの4例、左側反応は3例である。C.C.F. 3例陽性、S.R. も又3例陽性であつた M. はヘブラの1例に6.0を呈したものがあつた。Uは1例のみが陽性であつた(第9表)。

## 10. 角化症及び炎症性角化症

角化症及び炎症性角化症は比較的肝障害率の低い疾患群の1つであつて、障害例は14例中2例にすぎ

第8表 水疱症

症 例	年 齢	症 名	皮疹部位	肝 機 能							U
				高 田	G. Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	
67	♀ 47	デュウリング疱疹状皮膚炎	全 身	—	R7	1	/	/	2.7	—	—
68	♂ 20	"	"	—	R3	2	—	4	3.0	—	±
69	♀ 41	"	軀幹四肢	土+	R6	5	廿	2	3.8	—	±
70	♂ 70	"	"	土士	R5	3	—	/	3.5	—	+
71	♂ 39	"	軀幹四肢	—士	R3	5	+	2	2.0	—	—
72	♂ 48	"	"	—	R3	1	士	1	2.8	—	±
73	♀ 58	尋常性天疱瘡	全 身	—士	R2	2	—	1	4.2	—	+
74	♂ 57	"	"	廿卅	R4	6	+	4	3.5	—	±
75	♂ 36	"	"	廿士	R8	9	士	3	2.0	—	—
76	♀ 9	先天性表皮水疱症	"	++	R5	2	—	4	3.2	—	±
77	♂ 9	"	腹、腰、四肢	士士	R5	9	+	4	1.5	—	—
78	♂ 39	"	全 身	++	R5	7	+	3	3.6	—	+

第9表 紅皮症

症 例	年 齢	病 名	皮疹部位	肝 機 能							U
				高 田	G. Co. R.	T.T.T.	C-C-F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	
79	♂ 64	ヘブラ氏紅色粒糠疹	全 身	廿廿	R9	7	—	3	2.5	—	—
80	♀ 59	"	"	廿廿	R9	8	—	3	3.5	—	±
81	♂ 61	"	"	廿廿	R7	5	—	4	4.0	—	+
82	♂ 64	ウイルソンプロック紅皮症	"	++	R7	4	—	2	2.5	—	+
83	♀ 35	亜急性原発性紅皮症	顔、項、腋窩、四肢	—	R2	4	—	1	3.4	—	±
84	♀ 21	魚鱗癖様先天性紅皮症	全 身	—	R3	2	—	/	5.5	—	+
85	♂ 18	"	"	—	R4	1	/	0	4.0	—	—
86	♂ 42	統發性紅皮症	"	—	R0	3	—	/	3.8	—	+
87	♀ 78	先天性紅皮症	"	—	R2	2	/	0	2.0	—	—

なかつた。飛田<sup>7)</sup>は尋常性乾癬に於いて2例中2例に、中村<sup>11)</sup>も2例中2例に障礙ありとしているが、それに比しかなり低率である。高田、Gは1例のみそれぞれ陽性、Co. R. 右側反応2、左側反応3、T.T.T. 陽性3、U.において5例が陽性であつたのみで、他の反応はすべて陰性を示した(第10表)。

### 11. 皮膚硬化症

皮膚硬化症は高率に肝障礙を示した。すなわち、12例中肝障礙例7例で半数を越え、障礙の程度も高

かつた。それはとくに汎発性鞆皮症に於いて著るしかつた。高田陽性7例(+2例、+1例、+4例)、G. 陽性5例(+3例、+2例)、Co. R. 5例右側反応、2例左側反応、T.T.T. 6例、C.C.F. 4例、S.R. 5例、M. 1例、U. 3例の陽性を証した(第11表)。

### 12. 皮膚萎縮症

4例中1例に肝障碍を認めた。高田反応1例、G. 1例陽性、Co. R. 右側反応2、T.T.T. 1例、

第10表 角化症及び炎症性角化症

症 例	年 性 齢	病 名	皮 疹 部 位	肝 機 能								
				高 田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.
88	♂ 20	タリエー氏病	頭、頸、軀幹、膝、脛	- -	R4	4	-	2	/	-	/	-
89	♂ 36	"	後頭、脛	- -	R3	2	-	2	2.6	-	±	+
90	♀ 38	角性座瘡	肘頭、膝蓋、肩甲部、乳房	- -	R3	1	/	0	2.8	-	-	-
91	♂ 22	尋常性乾癬	腕、背、下肢	- -	R2	3	-	/	2.2	-	±	+
92	♂ 84	"	全身	+ +	R4	5	-	1	3.5	-	-	+
93	♂ 45	"	頭、胸、四肢	- -	R4	3	-	2	3.4	-	-	-
94	♀ 19	"	全身	- -	R4	5	-	1	2.5	-	-	-
95	♂ 59	"	全身	- -	R4	3	-	1	2.4	-	+	-
96	♂ 41	"	頭、軀幹、四肢	- -	R2	1	-	/	3.7	-	±	+
97	♂ 27	"	全身	+ ±	R2	5	-	2	4.0	-	-	-
98	♂ 20	"	額、肘、頭、膝	± ±	R5	4	-	1	3.2	-	+	+
99	♂ 29	扁平紅色苔癬	前胸、上腹、四肢	- -	R4	3	-	/	3.5	-	-	-
100	♀ 20	毛孔性紅色斑糠疹	四肢	- ±	R5	4	-	1	2.4	-	-	-
101	♂ 17	"	肘、手、膝、足	- -	R3	1	/	0	2.6	-	-	-

第11表 皮膚硬化症

症 例	年 性 齢	病 名	皮 疹 部 位	肝 機 能								
				高 田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.
102	♂ 53	汎発性鞆皮症	顔	- -	R0	2	/	0	2.6	-	-	-
103	♀ 34	"	顔、腋	+ +	R8	6	+	3	3.0	-	-	-
104	♀ 31	"	左下肢	- -	R1	2	-	/	3.5	-	±	-
105	♂ 7	"	顔、上肢、前胸	- ±	R3	4	±	1	2.4	-	-	-
106	♂ 65	"	両上肢	+ +	R4	8	-	4	6.0	-	+	-
107	♂ 36	"	顔、右上肢、左下肢	+ +	R8	10	+	5	4.5	-	±	+
108	♀ 21	"	顔、軀幹	+ -	R5	8	±	3	3.6	-	±	-
109	♂ 32	"	左前腕、左手背	+ +	R6	7	+	3	2.4	-	-	-
110	♀ 19	"	左肩、左上肢	+ +	R3	4	±	2	2.2	-	-	-
111	♀ 34	"	顔、腕	+ +	R7	10	+	4	3.2	-	+	+
112	♀ 60	限局性鞆皮症	左下腿	- -	R2	4	-	1	/	/	/	+
113	♀ 26	"	眉毛部、鼻	- -	R5	2	-	1	2.6	-	-	-

第12表 皮膚萎縮症

症例	年性 齢	病名	皮疹部位	肝機能									
				高田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.	U.
114	♀ 29	血管性皮膚萎縮症	顔、頸、前腕、手	±	—	R5	3	—	1	/	/	/	—
115	♂ 19	"	胸、背、前腕、下見	—	—	R4	3	—	0	2.5	—	—	—
116	♂ 16	"	顔、手背、下同	—	+	R3	1	—	0	3.0	—	—	—
117	♀ 20	"	顔	+	—	R6	5	±	2	2.6	—	—	+

第13表 色素異常症

症例	年性 齢	病名	皮疹部位	肝機能									
				高田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.	U.
118	♀ 37	色素性乾皮症	顔	—	—	R7	2	±	/	2.7	—	±	—
119	♀ 6	"	顔、両手背	—	—	R3	4	—	1	2.4	—	—	±
120	♀ 51	リール氏黒皮症	顔、頸	—	±	R6	2	—	1	2.8	—	—	—
121	♀ 26	"	顔	—	—	R8	2	—	0	3.0	—	—	—
122	♂ 43	アジソン氏病	全身	—	—	R7	2	—	0	3.0	—	—	—
123	♀ 32	リール氏黒皮症	顔	±	—	R5	4	±	2	2.6	—	—	—
124	♀ 10	網状肢端色素沈着症	四肢端	+	±	R5	3	—	2	2.8	—	—	+
125	♀ 28	"	四肢端	+	+	R6	3	+	2	3.4	—	±	+
126	♀ 16	多発斑状色素沈着症	全身	—	—	R4	2	/	1	2.2	—	—	—

第14表 皮膚腫瘍

症例	年性 齢	病名	皮疹部位	肝機能									
				高田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.	U.
127	♂ 61	皮膚癌	背部	±	—	R4	2	±	1	2.6	—	—	+
128	♀ 56	"	前胸部	±	—	R6	4	±	3	3.5	—	±	—
129	♀ 54	"	下腹部	—	±	R3	2	—	1	2.2	—	—	—
130	♂ 12	淋巴肉腫	右側頸部	—	—	R3	1	—	/	4.3	—	—	—
131	♂ 70	"	右側頸部、右膝	—	±	R1	2	—	0	3.0	—	+	+
132	♂ 45	皮膚肉腫	頭部	—	—	R2	3	±	1	3.0	—	—	—
133	♂ 30	皮膚白血病	頸、躯幹	—	—	R0	1	/	2	7.0	—	+	—
134	♂ 86	黑色	下口唇	+	—	R4	6	+	3	3.2	—	—	—
135	♀ 69	皮角	後頭部	—	—	R3	2	/	0	2.8	—	±	—

U. 1例にそれぞれ陽性を認めた。

## 13. 色素異常症

男子1例、女子8例の9例を対象としたが、網状肢端色素沈着症の2例に肝障害を認めた。高田2例、G. 1例、Co. R. 右側反応6例、左側反応なし、C.C.F. 1例、U. 2例に陽性を証した。この成績は

飛田<sup>7)</sup>の報告にはば一致する(第13表)。

## 14. 皮膚腫瘍

9例中、男子6例、女子3例であつたが、皮膚癌の2例、淋巴肉腫の1例に肝障害を認めた。岩間<sup>12)</sup>は皮膚癌の6例中5例に、飛田<sup>7)</sup>は同じく2例の皮膚癌2例共に肝障害を認めている。機能検査別成績

をながめると、高田 1例、G. 2例陽性、Co. R. では右側反応 1例、左側反応 4例と、左側反応が圧倒的に多いことが注目される。T. T. T. 1例、C. C. F. 1例、M. 1例、U. 2例陽性を呈した（第14表）。

### 15. 膿皮症

膿皮症に於いても比較的高率に肝障害が認められ、7例中3例であつた。高田 3例、G. 3例、Co. R. 右側反応 2例、左側反応 1例、T. T. T. 2例、C. C. F. 1例、S. R. 1例、M. 1例、U. 2例が陽性を示した。この陽性率は飛田<sup>7</sup>、桂<sup>10</sup>の成績とほぼ等しい（第15表）。

### 16. 真菌性皮膚疾患

6例中、汎発性白癬疹を有する患者のそれぞれ1例に肝障害を認めた。高田 2例、G. 1例、C. C. F. 2例、Co. R. 右側反応 3例、左側反応 1例、T. T. T. 1例、S. R. 1例陽性であつた（第16表）。

### 17. 皮膚結核症

男子3例、女子5例、計8例中、類肉腫の1例にのみ障害を認めた。高田 1例、Co. R. 右側 3例、左側 1例、T. T. T. 1例に陽性反応を認めた（第17表）。

第15表 脓 皮 症

症 例	年 性 齢	病 名	皮 疹 部 位	肝 機 能								
				高 田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.
136	♀ 50	蜂 窠 織 炎	顔	- -	R2	2	-	1	6.0	-	+	±
137	♂ 75	"	"	卅 十	R4	6	+	3	5.0	-	+	+
138	♂ 52	增殖性膿皮症	頭、頸項、軀幹	++	R6	5	±	2	2.7	-	±	-
139	♂ 56	慢性乳嘴状潰瘍性膿皮症	軀幹、四肢	- ±	P3	3	-	/	1.4	-	+	-
140	♂ 21	尋常性痤瘡	顔	- ±	R4	4	-	2	2.2	-	-	-
141	♀ 23	膿疱性痤瘡	"	- -	R4	3	-	1	/	/	/	-
142	♂ 43	癩	軀幹、四肢	++	R6	4	+	2	3.4	-	±	+

第16表 真菌性皮膚疾患

症 例	年 性 齢	病 名	皮 疹 部 位	肝 機 能								
				高 田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.
143	♂ 54	汎発性白癬症	全 身	++	R9	5	+	3	2.0	-	-	-
144	♂ 50	汗疱性白癬症、爪白癬	兩 足、趾 爪	- -	R3	2	-	/	3.4	-	±	-
145	♀ 15	汗疱性白癬症	四 肢 端	- -	R2	2	±	1	2.4	-	-	-
146	♂ 65	スポットリコージス	左 前 腕	- -	R4	1	-	/	2.6	-	-	-
147	♂ 44	汗疱性白癬症	四 肢 端	- ±	R6	-	/	2	2.0	-	+	-
148	♀ 30	汗疱性白癬症及び白癬疹	軀 幹、四 肢	+ ±	R6	4	+	1	3.2	-	±	-

### 18. その他の疾患

先天性外胚葉発育不全症の2例、銀皮症1例、急性中毒疹1例、潜伏梅毒1例、結節癲1例、象皮症1例を含む7例では、急性中毒疹1例のみ肝障害を認めた（第18表）。

以上各疾患別に肝機能検査を施行し、その結果を述べて来たが、その成績を総括すると表19の如くである。

最も肝障害率の高い疾患群はエリテマトーデスであり、70%に肝障害を認め、以下、水疱症、皮膚硬化症、紅皮症、膿皮症、皮膚腫瘍、真菌性皮膚疾患、慢性湿疹、皮膚萎縮症、エリテマトーデスを除く他の紅斑症、色素異常症、紫斑症及び皮膚血行障害、その他の疾患、角化症及び炎症性角化症、接触性皮膚炎、皮膚結核症、尋常性痤瘡及び神経皮膚症の順である。

この様にほとんどすべての皮膚疾患に程度の差こそあれ、肝障害が認められたが、実験の対象とした163例中、肝障害を認めたものは53例、その割合は32.5%であつた。

第17表 皮膚結核症

症例	年性 齢	病名	皮疹部位	肝機能									
				高 田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.	U.
149	♂ 36	皮膚腺病	項、頸、上背	-	±	R <sub>0</sub>	2	-	1	2.5	-	+	-
150	♂ 20	尋常性狼瘡	右膝部	-	-	R <sub>5</sub>	2	±	/	2.0	-	+	-
151	♀ 23	バザン氏硬結性紅斑	下腿	-	-	R <sub>5</sub>	1	/	0	3.3	-	-	-
152	♀ 56	"	下腿、足背	-	-	R <sub>4</sub>	3	-	1	2.0	-	-	-
153	♀ 46	凍瘡状狼瘡	両手、両足	-	±	R <sub>4</sub>	2	-	0	1.5	-	-	-
154	♀ 39	"	両手、両足	-	±	R <sub>5</sub>	4	-	1	3.0	-	-	±
155	♀ 36	類肉腫	顔	+	±	R <sub>4</sub>	5	-	2	3.5	-	+	-
156	♂ 52	"	"	-	-	R <sub>3</sub>	3	-	1	2.4	-	-	-

第18表 その他の疾患

症例	年性 齢	病名	皮疹部位	肝機能									
				高 田	G.	Co. R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. d.	V.d.B. i.d.	U.
157	♀ 20	先天性外胚葉性発育不全症	全身	身	-	R <sub>4</sub>	3	-	1	2.4	-	-	-
158	♂ 20	"	"	"	-	R <sub>1</sub>	2	-	0	2.6	-	-	-
159	♂ 52	銀皮症	顔	-	-	R <sub>3</sub>	1	±	0	5.0	+	+	+
160	♂ 48	急性中毒疹	全身	身	+	R <sub>2</sub>	3	-	2	3.5	-	士	-
161	♂ 48	第Ⅲ期潜伏梅毒	全身	身	-	R <sub>3</sub>	1	-	0	2.4	-	-	-
162	♀ 30	結節病	全身	身	±	R <sub>3</sub>	3	-	1	2.2	-	-	-
163	♂ 28	象皮病	両下肢	-	-	R <sub>5</sub>	4	-	1	3.0	-	-	-

第19表 疾患群別肝障碍率

疾患群	急性湿疹	慢性湿疹	接皮觸膚性炎	尋神經炎及び皮膚及皮膚マス	エリテマトーデス	その他の症	紫斑	紫斑血行障礙及び皮	水斑	紅斑	角炎症性角化症	皮膚硬化症及び角化症	皮膚萎縮症	色素異常症	皮膚腫瘍	膿皮	真皮菌疾患	皮膚結核症	その他の疾患	計
症例数	18	10	7	7	10	8	6	12	9	14	12	4	9	9	7	6	8	7	163	
正・常例	14	7	6	7	3	6	5	4	5	12	6	3	7	6	4	4	7	6	111	
障碍例	5	3	1	0	7	2	1	8	4	2	7	1	2	3	3	2	1	1	53	
障碍率(%)	27.8	30.0	14.3	0.0	70.0	25.0	16.7	66.7	44.4	14.3	58.3	25.0	22.2	33.3	42.9	33.3	12.5	14.4	32.5	

次に肝機能検査法別にこの成績をながめて見たいと思う(第20表)。

### 1) 高田反応

陽性率の高い順位にしたがつて疾患群を列挙すると、エリテマトーデス(60.0%), 皮膚硬化症(58.3%), 紅皮症(44.4%), 膿皮症(42.9%), 真菌性皮膚疾患(33.3%), 水疱症(33.3%), 皮膚萎縮症(25.0%), 色素異常症(22.2%), 角化症及び

炎症性角化症(14.3%), その他の疾患(14.3%), 皮膚結核症(12.5%), 急性湿疹(11.1%), 皮膚腫瘍(11.1%), 慢性湿疹(10.0%)となり、他の疾患はすべて0%であつた。全疾患群を通じての陽性率は22.7%を示した。

### 2) グロス氏血清反応

紅皮症(44.4%), 膿皮症(42.9%), 皮膚硬化症(41.7%), エリテマトーデス(40.0%), 水疱症

第20表 疾患群別各検査法陽性率(%)

疾患群 \ 機能肝検査	高田	G.	Co.R.	T.T.T.	C.C.F.	S.R.	M.	V.d.B. i.d.	U.
急性湿疹	11.1	11.1	50.0	27.8	22.2	21.1	5.6	16.7	16.7
慢性湿疹	10.0	10.0	60.0	10.0	10.0	20.0	0	30.0	20.0
接触性皮膚炎	0	0	57.1	14.3	0	0	0	14.3	0
尋麻疹及び神経皮膚症	0	0	71.4	14.2	0	0	0	42.9	0
エリテマトーデス	60.0	40.0	90.0	60.0	50.0	60.0	20.0	40.0	40.0
その他の紅斑症	0	0	37.5	12.5	12.5	0	0	37.5	25.0
紫斑症及び皮膚血行障害	0	0	50.0	16.7	16.7	0	0	33.3	0
水疱症	33.3	33.3	50.0	50.0	50.0	50.0	0	25.0	33.3
紅皮症	44.4	44.4	77.8	33.3	33.3	33.3	11.1	33.3	11.1
角化症及び炎症性角化症	14.3	14.3	42.8	14.3	0	0	0	0	21.4
皮膚硬化症	58.3	41.7	75.0	50.0	33.3	50.0	8.3	15.0	25.0
皮膚萎縮症	25.0	25.0	50.0	25.0	0	0	0	0	25.0
色素異常症	22.2	11.1	66.7	0	11.1	0	0	0	22.2
皮膚腫瘍	11.1	22.2	55.6	11.1	11.1	22.2	11.1	22.2	22.2
膿皮症	42.9	42.9	42.9	28.6	14.3	14.3	14.3	42.9	28.5
真菌性皮膚疾患	33.3	16.7	66.7	16.7	33.3	16.7	0	16.7	0
皮膚結核症	12.5	0	50.0	12.5	0	0	0	37.5	0
その他の疾患	14.3	14.3	42.8	0	0	0	0	14.3	14.3
平均	22.7	17.9	59.5	24.5	18.6	17.0	4.5	23.4	20.7

(33.3%), 皮膚萎縮症 (25.0%), 皮膚腫瘍 (22.2%)、真菌性皮膚疾患 (16.7%)、角化症及び炎症性角化症 (14.3%)、その他の疾患 (14.3%)、急性湿疹 (11.1%)、色素異常症 (11.1%)、慢性湿疹 (10.0%) の順位であり、通算陽性率は17.9%と、高田よりやや低値を示している。

### 3) 血清コバルト反応

全疾患群を通じて陽性率は最も高く、59.5%を呈した。最高はエリテマトーデスで、90.0%を示している。順位はエリテマトーデス (90.0%)、紅皮症 (77.8%)、皮膚硬化症 (75.0%)、尋麻疹及び神経皮膚症 (71.4%)、色素異常症 (66.7%)、真菌性皮膚疾患 (66.7%)、慢性湿疹 (60.0%)、接触性皮膚炎 (57.1%)、皮膚腫瘍 (55.6%)、急性湿疹、紫斑症及び皮膚血行障害、水疱症、皮膚萎縮症、皮膚結核症はすべて50%で皮膚腫瘍に次ぎ、膿皮症 (42.9%)、角化症及び炎症性角化症 (42.8%)、その他の疾患 (42.8%)、エリテマトーデスを除く他の紅斑症 (37.5%) となっている。

以上の陽性率は、右側反応、左側反応を一括したものであるが、各疾患群についてみると、右側反応を示す例が、左側反応を示すそれに比し圧倒的に多く、左側反応を示した例の方が多い疾患群は、皮膚

腫瘍及び角化症のみであつた。

### 4) チモール潤滑反応

エリテマトーデス (60.0%)、水疱症 (50.0%)、皮膚硬化症 (50.0%)、紅皮症 (33.3%)、膿皮症 (28.6%)、急性湿疹 (27.8%)、皮膚萎縮症 (25.0%)、紫斑症及び皮膚血行障害 (16.7%)、真菌性皮膚疾患 (14.3%)、尋麻疹及び神経皮膚症 (14.3%)、角化症及び炎症性角化症 (14.3%)、エリテマトーデスを除く他の紅斑症 (12.5%)、皮膚結核症 (12.5%)、皮膚腫瘍 (11.1%)、慢性湿疹 (10.0%)、色素異常症、その他の疾患群では0%であつたが、広範囲の疾患群を通じて陽性を示し、全疾患群平均は24.5%であつた。

### 5) セファリン・コレステロール絮状反応

エリテマトーデス (50.0%)、水疱症 (50.0%) を最高として、以下紅皮症 (33.3%)、皮膚硬化症 (33.3%)、真菌性皮膚疾患 (33.3%)、急性湿疹 (22.2%)、紫斑症及び皮膚血行障害 (16.7%)、膿皮症 (14.3%)、エリテマトーデスを除く他の紅斑症 (12.5%)、色素異常症 (11.1%)、皮膚腫瘍 (11.1%)、慢性湿疹 (10.0%) の順であり、他の疾患群は陽性を示していない。全体的には18.6%であつた。

## 6) スカーレット・レッド試験

スカーレット試験に於いても、エリテマトーデスは最も高い陽性率を示した。すなわち、エリテマトーデス(60.0%), 水疱症(50.0%), 皮膚硬化症(50.0%), 紅皮症(33.3%), 皮膚腫瘍(22.2%), 慢性湿疹(20.0%), 真菌性皮膚疾患(16.7%), 膜皮症(14.3%), 急性湿疹(11.1%)であり、他はすべて0%である。全皮膚疾患を通じての陽性率は17.0%となっている。

## 7) モイレングラハト氏黄疸指数

肝機能検査中最も陽性度の低いものであつて、陽性を示した疾患群は、エリテマトーデスの20.0%，膜皮症の14.3%，紅皮症及び皮膚腫瘍の11.1%，急性湿疹の5.6%に過ぎない。全体を通じても4.4%と低率を示している。

## 8) 尿ウロビリノーゲン試験

エリテマトーデス(40.0%), 水疱症(33.3%), 膜皮症(28.5%), 皮膚硬化症(25.0%), 皮膚萎縮症(25.0%), エリテマトーデスを除く他の紅斑症(25.0%), 色素異常症(22.2%), 皮膚腫瘍(22.2%), 角化症及び炎症性角化症(21.4%), 慢性湿疹(20.0%), 急性湿疹(16.7%), その他の疾患(14.3%)となつており、平均は20.7%である。

以上各検査種目別にその陽性率を検討して来たが、すべての皮膚疾患を通じて、最も陽性率の高い検査法は Co. R. で、約半数の症例に陽性であり、59.5%の陽性率を示した。次いで T. T. T. 24.5%，高田22.7%とほぼ似通つた値を示し、U. 20.7%，C. C. F. 18.6%，G. 17.9%，S. R. 17.8%と続き、M. は最も低率で、ややかけはなれた 4.4%という値を示した。

## 総括及び考按

皮膚病変が体内諸臓器機能と密接な相関関係を有し、特に肝機能とは重要なつながりがあることについては、今や全く疑う余地のない所である。しかしながら、この問題に関する多くの報告があるにもかかわらず、相互の関連の本態、詳細について明解な解答は全く得られていない現状である。

現在迄の報告をながめて見ると、対象とした症例の数に於いて、又、疾患の範囲に於いて、施行した肝機能検査法の種類、数に於いて必ずしも満足すべきものではない。この点にかんがみ、私は本実験に於いて、可及的多種の皮膚疾患に対し、多数の症例について、かつ多彩な肝機能検査法を実施して、両

者の相関をうかがわんとした。

皮膚疾患と肝機能との相関について始めて記載したのは Bulkley<sup>1)</sup>(1912) であつた。彼は多くの皮膚疾患にはその原因として肝障害が大きな位置をしめるとして両者の関係を臨床的に推定した総説を発表している。実際に詳細な肝機能を測定して始めて両者の関係を明らかにしたのは Falchi<sup>13)</sup> で、湿疹 96例中40%に肝障害を証している。これに次いで我が国に於いても松延<sup>5)</sup>(1930) は、皮膚疾患患者の30%に肝障害を認めたと発表し、Milbradt<sup>14)</sup>(1931) も諸種疾患に肝障害を証し、毛細血管拡張、新生を特徴とする皮膚病変と肝障害に着目した。Döllken<sup>15)</sup>(1933, 1934) は、皮膚疾患患者の15%に肝障害ありとし、Burgess & Rabinowitch<sup>16)</sup>(1937) は50%という高率に肝障害を認めている。

岩間<sup>9)(12)(17)</sup>(1939, 1940) は、2040例の諸種皮膚疾患に対して、尿蛋白、尿糖、尿ウロビリノーゲン及び血清高田反応検査等を施行し、尿所見は43.5%陽性、うち尿ウロビリノーゲン反応は32.8%陽性であり、高田反応は37.6%であつたと発表している。小松<sup>18)(19)(20)</sup>(1940, 1941) も多数の皮膚疾患に肝障害を認め、小原<sup>21)</sup>(1941) は60.9%に陽性であるとしている。

最近の文献では、本邦に於いてはまず、吉田<sup>22)</sup>(1950) も高率に肝障害を証し、v. Mallin-Krodt Haupt<sup>23)</sup>(1952) はアレルギー性皮膚疾患の35%に高田反応陽性であつたといふ。Cerny<sup>24)</sup>(1952) は、70例について検索し、器質的肝病変を43%に、糖代謝異常を41%，触毒機能異常を91%に認めている。飛田<sup>25)</sup>(1955) は、肝機能検査を施行するに当つて、これを実質反応と間質反応に分けて測定し、各種皮膚疾患について検索した結果、57名中48名、84.5%に何等かの肝機能障害を認め、実質反応は35~50%，間質反応は20~60%陽性であつたと述べている。桂<sup>10)</sup>(1958) も、65名の皮膚疾患患者に膠質反応を施行し、滲出性傾向の強い疾患に陽性率が高いとし、武田<sup>4)</sup>(1959) は、527名に10種の肝機能検査を施行し、362名、68.7%に肝障害を認めている。

私が行なつた成績は、対象とした163例の各種皮膚疾患患者中、肝障害を認めたのは53例、32.5%であつた。諸家の成績と比してやや低率ではあるが、これは対象とした疾患の種類、選択した肝機能検査法の差異等も幾分考慮すべきであろうと考える。

次に各種皮膚疾患中、いかなる種類のものに高率に肝障害を証するかという問題であるが、岩間<sup>9)(12)(17)</sup>

は剥脱性紅皮症, エリテマトーデス, 丹毒, 痢瘍, 中毒疹, 皮膚結核等に特に高率に認めており, Milbradt<sup>14</sup> は, 湿疹, 痢瘍疹, 莖麻疹, 中毒疹(サルバルサン), 尋常性狼瘡, 痘瘍状狼瘡, 翠皮症, 痘瘍状皮膚炎, 天疱瘡等を挙げ, Döllken<sup>15</sup> は, 落屑性皮膚炎, サルバルサン皮膚炎を, 伊知地<sup>25</sup> は病巣が広汎な急性湿疹, 乾癬, 慢性蕁麻疹, 剥脱性紅皮症等を, 中村<sup>11</sup> は, 湿疹, 皮膚炎, 脂漏性湿疹ではその大多数に肝障害があるとしている。飛田<sup>7</sup> は, 肝実質障害陽性率の高いものとして, 円板状エリテマトーデス, 尋常性痤瘡, 莖麻疹を, 間質障害としては, 急性エリテマトーデス, 脂漏性湿疹, 剥脱性紅皮症, 尋常性乾癬等を, 共におかされるものとしては蕁麻疹, 湿疹等を挙げている。桂<sup>10</sup> は, 湿疹, 淫発性紅皮症, 尋常性天疱瘡, エリテマトーデス, ジュウリング氏痘瘍状皮膚炎, 痘瘍状膿瘍疹, 血管神経性紅斑, 毛囊炎等を指摘している。

私の行なつた検索で陽性率の高い順位にしたがつて各疾患群を列挙すると次の如くである。すなわち, エリテマトーデス, 水疱症, 皮膚硬化症, 紅皮症, 膿皮症, 皮膚腫瘍, 真菌性皮膚疾患, 慢性湿疹, 急性湿疹, 皮膚萎縮症, エリテマトーデスを除く紅斑症, 色素異常症, 紫斑症及び皮膚血行障害, その他の疾患, 角化症及び炎症性角化症, 接触性皮膚炎, 皮膚結核症, 莖麻疹及び神經皮膚症となつてゐる。以上成績は前述の諸家の成績と大差はないが, ただエリテマトーデスの高率を示したこと, 接触性皮膚炎, 莖麻疹がやや低率を示している点が注目される。

従来各種皮膚疾患に対して行なわれた肝機能検査は各種各様であり, 又その検査の成績も一様ではない。それらの検査法の内, いずれが特にすぐれ, いずれが劣つてゐるかについても一概に結論を下すことは出来ない。Burgess & Rabinowitch<sup>16</sup> は血清ビリルビン量と尿ウロビリノーゲン反応が最も鋭敏であるとし, 岡田<sup>26</sup>, 小松<sup>18</sup>, 吉田<sup>22</sup>, 桂<sup>10</sup> 等は膠質反応に重きを置いてゐる。飛田<sup>7</sup>, 武田<sup>4</sup> 等は, 肝機能検査を実質反応と間質反応に分けて検索している。飛田がなつた6種の検査法の陽性率は血清沢田昇汞反応66.6%, 血清カドミウム反応55.1%, B.S.P. 51.7%, 血清ビリルビン指数40.3%, 尿ウロビリノーゲン反応36.3%, 血清コバルト反応22.8%と述べ, 武田は10種の検査法を施行し, その陽性率を, 沢田氏昇汞反応 66.1%, 硫酸亜塩濃濁反応

57.4%, 血清コバルト反応48.2%, チモール濃濁反応41.2%, 尿ウロビリノーゲン反応36.2%, 血清ビリルビン指数35.1%, カドミウム反応33.9%, グロス氏反応30.2%, B.S.P. 25.8%, C.C.F. 7.9%の順であるとしている。

私の行なつたのは, 膜質反応を主とした7種の検査法であつたが, その順位は Co.R. 59.5%, T.T. T. 24.5%, 高田22.7%, U. 20.7%, C.C.F. 18.6%, G. 17.9%, S.R. 17.8%, M. 4.4%という値であり, Co.R. が最も高率であり, M. が 4.4%といいういさかかけはなれた値を示したことは武田, 飛田等の成績とやや異なる点である。

以上諸種皮膚疾患についてその肝機能を検索し, それぞれに肝障害を認め, 各種皮膚疾患群によつてその陽性度に差があることをも証し得たが,かかる皮膚疾患と肝機能との相関に於いていずれが原因であり, 又いずれが結果であるか, 又相互が及ぼす影響の機序についても, 肝機能の複雑性, 皮膚病変の多様性からして, に能かに結論づけることは困難であると考える。

## 結論

各種皮膚疾患者に7種の肝機能検査を施行し, 次の結果を得た。

- 対象とした皮膚疾患群のほとんどすべてに肝障害を認めた。
- 肝機能検査を施行した患者は163例で, その内肝障害を認めたもの53例(32.5%)であつた。
- 各肝機能検査の陽性率は, Co.R. 59.5%, T.T.T. 24.5%, 高田22.7%, U. 20.7%, C.C.F. 18.6%, G. 17.9%, S.R. 17.8%, M. 4.4%の順であつた。
- 肝障害率の高かつたものから各疾患群を列挙すると, エリテマトーデス, 水疱症, 皮膚硬化症, 紅皮症, 膿皮症, 皮膚腫瘍, 真菌性皮膚疾患, 慢性湿疹, 急性湿疹, 皮膚萎縮症, エリテマトーデスを除く他の紅斑症, 色素異常症, 紫斑症及び皮膚血行障害, 角化症, 接触性皮膚炎, 皮膚結核症, 莖麻疹及び神經皮膚症となる。

稿を終るに臨み, 御校閲をいただいた恩師大村教授に深甚の謝意を表すると共に, 野原助教授の御指導, 御鞭撻を感謝する。

## 文 献

- 1) Bulkley, L. D. : J. Cut. Dis., 30, 670 (1912), (1931).
- 2) 金井：臨床検査法提要。
- 3) 広田：結核, 28, 137, 昭31。
- 4) 武田：四国医誌, 16, 370, 昭35。
- 5) 松延：皮泌誌, 30, 825, 昭5。
- 6) 安田：中外医薬, 6, 1, 昭28。
- 7) 飛田：四国医誌, 7, 112, 昭30。
- 8) 千原：皮と泌, 5, 173, 昭12。
- 9) 岩間：皮尿誌, 47, 26, 昭15。
- 10) 桂：皮紀要, 53, 398, 昭33。
- 11) 中村：皮と泌, 6, 508, 昭13。
- 12) 岩間：皮尿誌, 48, 30, 昭15。
- 13) Fulchi, G. : Cion. ital. diderm. e sif., 68, 704, 1927, Zit. nach Zbl. Haut-krkh., (1928).
- 14) Milbradt, W. : Arch. f. Dermat., 164, 399
- 15) Döllken: Arch. f. Dermat., 168, 495(1933).
- 16) Burgess, J. F. & Rabinowitch, I. M. : Arch. Dermat. & Syph., 35, 932 (1937).
- 17) 岩間：皮尿誌, 48, 193, 昭15。
- 18) 小松：北越医誌, 55, 555, 昭15。
- 19) 小松：北越医誌, 56, 109, 昭16。
- 20) 小松：北越医誌, 56, 279, 昭16。
- 21) 小原：皮泌誌, 20, 381, 昭16。
- 22) 吉田：皮性誌, 60, 19, 昭25。
- 23) A. St. v. Mallinkropt-Haupt: Zbl. Hautkrkh., 84, 50 (1953).
- 24) Cerny, E. : Dermatologica, 105, 169(1952).
- 25) 伊知地：皮泌誌, 35, 11, 昭9。
- 26) 岡田：皮紀要, 40, 73, 昭17。

Studies on Liver Function in Skin Diseases  
Liver Function in Patients with Skin Diseases

By

Hiroyuki OMORI

From the Department of Dermatology and Urology, Okayama University Medical School  
(Director: Professor Dr. J. Oomura)

There is the close relationship between skin diseases and the other organs, especially liver. However in spite of many reports the mechanism of their relationship and its details have not been made clear yet. For the purpose of studying this relation, the various kinds of liver function tests were performed to obtain the following data.

1. The disturbance of the liver function was observed in almost all the group.
2. The disturbed liver function was observed in 53 (32.5%) out of 163 cases.
3. Among liver function tests performed, Cobalt Reaction in serum was positive in 59.5% of all cases, Thymol Turbidity Test 24.5%, Takata Reaction 22.7%, Cephalin Cholesterol Flocculation Test 18.6%, Gros Test 17.9%, Meulengracht 4.4%.
4. The degree of disturbance of the liver function is seen in the following order; Lupus erythematoses, Bullous diseases, Sclerosis cutis, Erythrodermia, Pyoderma, Dermal tumors, Diseases due to fungi, Eczema chronicum, Eczema acutum, Atrophy cutis, Erythematous diseases except Lupus erythematoses, Pigment anomalies, Diseases of the cutaneous blood vessels, Keratosis cutis, Contact dermatitis Tuberculosis cutis, Urticaria and Cutaneous neurosis.